

## 保育ドキュメンテーションを作成しよう

- ・活動の始まりや広がりや子供の気付きから
- ・活動の中で深まる学びのプロセスを明示

### ねらい

- (発信のねらい) 遊びを通して子供に育まれている力を保護者と共通理解する  
 (子供の活動のねらい) 気に入った友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう  
 (内容) ・水、砂、泥の感触を味わい、繰り返し試して遊ぶ  
 ・見立てたり、思い付いたりしたことを言葉にして遊ぶ

本園では、お便りの配付や写真を掲載した掲示物、最近では ICT を活用する機会も増え、アプリを使った配信も進めている。登降園時に挨拶とともに、子供の様子を一言付け加えたりすることも、保護者との信頼関係づくりにつながると捉えている。

子供の姿を伝える時には、具体的な姿を紹介し、そこでどんな学びや育ちをしているかを話すようにしている。家庭と共に充実した保育を進めていくために、指示や決めつけのように受け取られないよう、言葉選びにも配慮している。インターネットでの発信が難しい時もあるので「園だより」「〇〇組つうしん」などの、印刷物にして配付したり、園内にドキュメンテーションとして掲示したりして、生活や学びの様子を伝える工夫もしている。

### 「水、砂、泥でいっぱい遊んだよ」(4歳児 6月)



【泥の感触を楽しむ姿】

泥んこで作ったごちそう！  
 お皿に盛ったり、大きなお団子を作ったり♪たくさんお客さんが来ると忙しいけれど、うれしそうでした！

泥の感触、作る団子の大きさや重さや形等を、夢中に遊ぶ中で、体験を通して知っていきます。お客さんとのやりとりでは、「いらっしやいませ」「ありがとう」など、人との関わりで必要な言葉を自然と身に付けていきます。



【異年齢児で交流する姿】

さくら組さん(3歳児)もお客さんで来てくれましたよ♪

4歳児にとって、3歳児は「小さい子」。優しく言葉を掛けたり、必要なことを教えてあげたり、思いやりの気持ちをもって関わっています。自分がしてもらってうれしかったことを、してあげているのかもしれないね。

### ポイント

次第に面白くなっていくプロセスを追いながら、遊びを通して学ぶ様子を伝える。



【考えを出し合っているところ】

大きな山にじょうろで水を流し、川のように流れてくると、「おお、流れた」と大歓声！  
水の勢いが増すと面白さも増し、友達と交代しながら繰り返し流していました。

うまく水が流れるまでには、山が崩れたり、水が砂に全部しみ込んだりもしました。その都度、友達と考えを出し合っていました。うまくいった時の達成感、力を合わせてやり遂げた充実感は、心の成長です。



【何度も試す姿】

「どう？出てきた？」  
「出てきた、出てきた！水が流れているぞ！」

遊びの中での体験を通して、ものの仕組みや道理に気付いていきます。成功させたいという強い気持ちが、粘り強く取り組む力、あきらめずに挑戦する力につながっていきます。たくましいです。



【葉っぱは身近な自然物】

水たまりで釣りごっこ♪  
葉っぱを魚に見立てて・・・

子供たちにとって自然物は身近な学びの道具です。葉っぱの魚はゆらゆら泳ぎます。イメージ豊かに遊びに活かし、遊びの中で、感性や表現力を育てています。釣れた魚は・・・、さあ、どうなったでしょう！？

## ふりがえり



子供の育ちについて保護者の理解を進めることが、子供のよりよい園生活につながる

「うちの子は、園でのことを全然話してくれないんです」という保護者の声を聞くことがある。嫌がらずに登園しているし、子供にしつこく聞くのもよくないと思い、結局、分からないままにしているとのこと。そんな話を聞くと、園側がもっと保護者の理解が進むよう、伝えるべきことを伝えなければ、という思いに駆られる。

また、逆に「園に任せているんだから、友達とのケンカのことなど、いちいち言ってこないで」という保護者の言葉に出会ったこともある。

どちらのケースにおいても、子供にとってよりよい園生活にしていくために、園が保護者と力を合わせていくよう工夫をしていかなければならない。

ドキュメンテーションでは、子供の姿とともに育まれる資質・能力を理解しやすい言葉で伝わるよう配慮しながら示し、子供の育ちについて保護者の理解を進めている。